



ぽっかぽか そう組



自分のからだを大切にすること

この夏、子どもたちが成長したなあと感じる一つに「自分の体を大切にすること」があります。水分補給の時間を登園時、10時、17時と決めて計画的に行っており、もちろんこの他に昼食時、おやつの時、戸外活動前後にも行っています。以前は「飲みたくない」「いらない」という子も数人いました。その都度子どもたちには「飲まないで体の水分が足りなくなると熱がでて病気（熱中症）になってしまう」こと、喉が乾いたときに飲むのではなく「決めた時間に飲むことが体に大切」なことを伝えてきました。

「みんながしているから」「大人に言われたから」ではなく、その行為の理由も伝えているため、今では「のみたくない」という子にはほかの子が説明して水分補給を促してくれるほどです。またお茶を飲みながら「飲まないとお熱がでちゃうんだよね」と自分に言い聞かせるように飲む子もいます。

「悲しい気持ちになってきた」

自分のからだを大切にすること～これは他者を大切にすること、労わる気持ちにもつながっていく大切な意識です。そして体だけではなく、心や気持ちも大切。

先日おもちゃのやりとりがうまくいかず「〇〇ちゃん嫌い」と言われた子がいました。以前なら大人に言ってくるか、けんかになっているところですが、「嫌い」と言われたその子は「嫌いって言わないで。言ったら悲しい気持ちになっちゃうよ」と言いました。そして「ほら、悲しい気持ちになってきた…」と涙声で言ったあとに泣きだしたのでした。相手を責めるでもなく、叩くでもなく、この子が自分のやりきれない気持ちを忠実にそして的確に言葉にして相手の子に向かい合う姿を見て感動してしまいました。一方「嫌い」と言った子はうつむいています。私にはその子が泣いた子に申し訳ない気持ちと気まずい思いを抱えているように見えたのでした。

「わたしも大事 あなたも大事」

気持ちの言語化。0歳の時は大人の代弁が不可欠でしたが、それを継続してきたこともあり、今のそう組の子どもたちは本当に大人が驚くほど自分たちで気持ちの言語化が出来てしまいます。「わたしも大事あなたも大事」というのは私と真太郎さんが年度初めに決めたクラス目標です。体も気持ち（心）もお互いが大切にし合える、育ちあえる関わり。言葉や会話が上手になってきたそう組の子どもたちだからこそ人間関係の基礎になる関わりをこれからも大切にしていきたいと思っています。